

**Mitchell, William J. *The Reconfigured Eye*. MIT Press, 1992.**

①

- ・科学者ラッセル・A・カーシュによる、1950年代中頃の初のデジタル写真。
- ・The Raster Grid
- ・微細的に、連続的な性質を持つアナログ写真は、複製し続ければ劣化し、オリジナルの画像からかけ離れていくのに対して、微細的に、断続的かつグリッド的な性質を持つデジタル写真は、そうした家庭においても劣化することがない、と主張される。 (6)
- ・マニピュレーションに挙げられる作家たち、ヘンリー・ピーチ・ロビンソン、オスカー・G・レイランダー、ジョン・ハートフィールド、ジェリー・ウェルスマント→デジタル写真は、マニピュレーションが加わることがその前提として存在すると、指摘される。 (7)
- ・デジタル写真は、写真の事実性や真実を信じるもの（ジャーナリズムの領域）においては抵抗される一方で、写真の客觀性をめぐるアポリアを打破することを望む人々にとって歓迎されるものとなる。

②

- ・デジタル画像の技術的向上は、60年代の宇宙開発と軌を一にしている。Voyagerからの画像の送信。はるかかなたのデジタル画像を見るという経験は、写真初期の、旅行写真をめぐる経験に似ていると言える。
- ・ミクロなモノの可視化という試みから、身体内部の可視化、身体の社会的制御、軍事的利用への道筋がつくられる。1990-1年 の湾岸戦争において、いかにデジタル画像が重視されたか。
- ・1989年には、カラー写真のおよそ10パーセントがデジタル修正されていることが推定されていた。
- ・80年代以降、報道写真をめぐる不信の必然的な上昇とその危惧。
- ・1980年代末頃には、高価だったデジタル画像をめぐる技術が、コダックの登場の様に、大衆化された。
- ・デジタルカメラの登場、ローレイ・デジタル・スキャナバック、フジックス・デジタル・スタイルカメラ、コダック・プロフェッショナル DGS らが、1980年代末から90年代初頭にかけて登場。同時に、データの大規模保存を可能にするCDの登場。ここから、複製技術が、アナログからデジタル主体に移行したとみられる。
- ・ここにおいて、デジタル画像をめぐる一連の技術が、限られたモノだけでなく、大衆へと渡った。
- ・各機関が（the National Press Photographers Association, the Associated Press, the Norwegian Press Association, the nonprofit Artists Rights in Hollywood, the Film Disclosure Act）、デジタル画像技術の流用に対する声明を発表していたが、時すでに遅しかった。

- ・またデジタル画像の経済的優位性も指摘されるべきであり、非物質的、時間短縮、化学的コストの低下、保存コストの減少、アクセスの簡易化、修正の可塑性、持ち運びの利便性など。 (19)
- ・ふたつの技術と芸術の見方を提示——ひとつは、技術が社会的要請によって生じたとする見方、ひとつは、技術が新しい社会的・文化的基盤を作り出すという見方——、どちらにしても、技術の誕生が新しい社会的・文化的実践の核となり、新しい芸術的探究のはじまりとなると、ミッケルは主張する。
- ・1989年をアナログ写真からデジタル写真への転換に位置付ける。

③

- ・ヤコブソン、バザン、ソンタグ、バルト、バージャーらによる、写真のインデックス性あるいはその現実の痕跡。
- ・ミッケルは、写真の真実性について嫌疑を立てるには、写真のネガとプリントの相違に目を向ければよかつたが、デジタル写真の登場はこうしたやりとりを決定的に変化させたと指摘する。 (30)
- ・真実性をめぐる問い合わせとして、ひとつは写真における現実的な視覚的一貫性があるか、ひとつは写真の状況をめぐる一貫性が証明可能か、ひとつは撮影者は誰であるかとその写真自体の歴史が明白か。とくに最後の点について、その *provenance* が疑わしいことが決定打となった事例が紹介される (47)
- ・ネガ、プリント、作者、なにがいかに決定されるのか。Brett Weston は自らのネガを他人によるプリント防ぐために焼却した。一方でデジタル写真はネガすら持たずに、無限にコピーがつくられる。 (49)
- ・デジタル画像は常に流通の状態に置かれている。ベンヤミンの礼拝的価値は、入力的価値 (in-put value) に置き換わった。 (51-52)
- ・アメリカの著作権 1909 (53)
- ・こうした写真のこれまでの存在の在り方をデジタル写真の登場が一切無効化した後の問題を列挙していく (52-55)
- ・デジタルイメージエコノミーにおいて、イメージ一枚は融解し、イメージごとの連関が強まり、もはやそれ自体視覚的真実ではなく、その使用に力点が置かれていく (57)

⑨

- ・写真が事実として機能するか否かをめぐる考察。写真は鏡ではなく、アリスのような、別世界に入る窓のようであり、虚偽やフィクションを生み出している。重要なのは、それがいかに作られているかという点以上に、それがいかに使われているかという点に移行する。 (191-192)
- ・グリーンバーグの 1964 年の論考、バルトの記号論。

- John G. Bennett は、キャプションと写真の対応関係を論ずることから、ミッケルは、写真とキャプションの関係の重要性を再認識する。 (192-193)
- Photographs, the *presents* facts but are frequently *used* as evidence. チャンドラーの小説の描写、オズワルドによるケネディ殺害をめぐる写真を挙げながら(193)
- ベトナムにアメリカの捕虜が生き残っているというブラック・メールについて、47 ページへ (195)
- コナン・ドイルによる、妖精写真の例を挙げながら、There is, then, a symmetry of uses. Straight-forward photographs can be used legitimately and effectively to show that things exist. But mislabeled or manipulated photographs can be used to create illusions of existence. (196)
- 「追加」ホイットマンの蝶の写真をめぐる議論など、デジタル写真時代の写真への画像の挿入は写真を通じた現実の「可能性」を見せようとするものともなる (199-200)
- 「削除」スターリンの演説からトロツキーの姿が消されているなどから、写真からの消去も、効果的な活用となる
- 「置換」リンカーンの顔が置き換えられたり、女性をめぐるセクシュアルな利用がされたり、1991 年に週刊文春が天皇の髪形を変えてみたりすることが、デジタル写真の時代には容易に可能となる。
- 1890 年に撮影された、ロートレックを描くロートレックを写した写真 (213)
- 写真が事実であることを成り立たせるいくつかの規則、ひとつは *constitutive rules*——話者が真実を語ることを基本的原理として保持していること、ひとつは *informativeness rule*——語っている内容が現実の原理に応じていること、ひとつは *sincerity rule*——話者が事実に忠実であること (218)
- 1991 年オリヴァー・ストーンによる JFK に対する批判
- Thus we can begin to see that the truth, falsehood, or fictionality of an image is not simple a congenital property—one conferred at birth by a particular capture or construction process. It is, at best, only partially determined by the maker of the image. It is a matter, as well, of how that image is being used—perhaps by somebody other than maker—in some particular context. (220)
- But the emergence of digital imaging has irrevocably subverted these certainties, forcing us to adopt a far more wary and more vigilant interpretive stance—much as recent philosophy and literary theory have shaken our faith in the ultimate grounding of written texts on external reference, alerted us to the endless self-referentiality of symbolic constructions, and confronted us with the inherent instabilities and indeterminacies of verbal meaning. (225)